

523
MTN 2

岷江入楚

王翬

22

かろ

と月夕うゝぬきとあふりし夕ふと病急を結ぶ

た
玉の旁に花とあり乃時夕無とあるなり如くぬりぬりそれよりこゝろ
またへんとせむとありとありゆきては成るぬれぬれといふところまでぬ
るぬれ事とする

いそれ娘未摘と曰振て何事とて説きし未摘恥き若菜れ次を
 是とも横乃蓋ありて所よ夕魚をよつて母をぬくてをりて
 又あつて此事を母へ言ふありふりて是夕魚上此事を言ふ
 若菜も怒れ又爲忘れし夕魚をよつて母をぬくてをりて
 是とも横乃蓋ありて所よ夕魚をよつて母をぬくてをりて

秘
いぬ隅末痛を似たり此とも心各別し先末痛をれを常法に
れ事と定てり夕島と一似りしむる人もうれとあひとるなり
あふんまびきれん今ふふ院と遠年まらうてもび院内よ
夕島とれを無あらういふるさふらうのよ物とてあふんを
りうまうはやうくありひあうてあふん約う福を無
いさう所さあふんあふんまらうとふ事候所は所は及ふ
秘秘ノ義を作し候とてうかり候

あまうそ

何振達

世中にありて

松山義經之用今紀事

あを病乃人
れなを病と

秘
夕魚孔後じふとろや

有人悲之

とらふ女房をとりて

吹し御ふりなれ

ひるにきき上れぬきし海かき

ふくふくふくふく

ちとくふなり

易云潛龍勿用 注 龍德而隱と云ふは、龍の頻りに出づるを戒むる意なり。此の意は、龍の德が未だ顯れず、故に潜るべしと云ふ也。

易云潛龍勿用

任

龍德而隱と云ふ此を此頻早の心と云ふ也

女君之御

ちとくちとあふぬとち

心悲うらみ

長生年記

所見如

夕ふれ事とちとやふふや

京師へふくれりひのふり咲きそふや

うゝと海御心うゝありきとたむらわふに

海のふちありて御心うれた兒も打捨てハ毒のつひに夕也命ハ
わうしめしやうのれりしハおちせんゆとてあやて

考經云滿而不溢

[illegible]

なる事とふなりと
 淫六海に拘れあまの金れん

松石人

御んとなつて

葉子の事と云ふ

小沛及河上

い
し女をこれ終りふり事

彼れよりとありては君とてたれ来とあり

何
月
日
未
ハ
ヨ
ク
シ

組
ひつとまうとれ事とあ

是より六五の如く此の如く

して親のありし事となくせり死ありあり

あゝらゆゝ

あけに辰時いまいさる事あり

あゝらゆゝあり

あゝらゆゝれ海よれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ事とる出る

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

あゝらゆゝれ海

ひき移ひともひ
玉うつおとけくぬあすまうひき移と
うりも雲れまうりあけしとやみ中納言のあひくらんと
空けひつゝもひあるお中人も
元
空けつゝ

秘史のつらなり

月
空つとけ

元
字
地
子
色

何と云ふやうな

いせうそくいふふ人多し

ゆきくろくろ

わかれにふりかへて

又海といふくめしあものうき

いんぎょの町

五つねちやれとある

とれううとくみひなりて人衆よりあはれをう

[illegible]

玉璫を以て空の如く稱人衆を以て空に比す

[illegible]

弟本志ふなりと云ふなり

いとたもとのころはよつたる

常子定てゐる

死か氣う子丸男女たふしんよつてくは候たふあてをつてあると云

系れとけりて成るる

秘くも存ねばいふつと新

のり事とありしとてしとれたるなり安んじ

うにまゐひあつたをぬきとて
ひをぬきし玉を乳母にゆへ

あひる

秘玉之

祿之部

年星
又年三
正五九月此

義可死也此乃先王之所

年三月長沙經云若有苦男子女未嫁年三之每戒忽曉諸雅

未獲殊勝福利其年必省祀年有三个月而謂天帝人為其主

領廻天下捨斗衆生所作善惡其正月廿日向南園淨提二

月起西曜邪左三月行北轸檀四月有東弗婆提也天帝以正

月五月九月巡向南列註記彙作業
三
後撰集才女之年三

乃之女且越乃也小祝と傳くゆふれ加へてのうゝ乃仙祐所

百とふハとせとてくねのちとてふんてりや

一説云紫雲寺
和一年九月丙子正月乙未

あふふ若根り能宜り海より
初よりとてその様より

大なり小なり終

玉

ひまじろふ飛せんれぬ

秘
任之肥
常必
任之
必肥

一勤同之

太史少監とてむこれあり

太宰府一員 押持太貳少貳

大監 二小監 二大典小典大小令史少貳 叙爵之時少令史
を伴ふ監叙爵之時太史監と考へ太監と正六位下少監と
正六位上相當也 有軍監 軍者有東監者有西貳下也

太監正六位下相當の官なり 後任下叙あること太史乃監と稱する
秘 監は太宰之太監に相當六位にさうひれ中監とて叙爵するは
叙爵してさうと太史乃監といふ

將 太宰乃監りかもの叙爵さうと監とてさう
せうむろ 一類乃廣きと族ノ字やれ又孫と

しつ川守にをれうに ありさむか人志心とさめ
うられあふ女 うられとさうありさう

いふにさうとさ ありさうとさうとさうとさ
じとさうと監れりなり

たりかんとれ ひとさうと事とさうとさうとさ
といふにさうとありさうと肥後さうとさうと
いふなりこととさ か貳さうとさうと太史乃監なり

ありさうとさうと 秘 何事といふ食月食力とせと
ありさうとさうと 秘 次郎と郎

秘 貳さうとこと人さうとさうと太史乃監とさうとさうとあり太郎
れ者後めむさうと月をせさうと

ありさうとさうと ありさうと 次郎と郎れなり
さうとさうとさうと監りかうとさうとさうとさうと

ひなりさうとさうと ありさうと
とありさうとれ 秘 此二人なり

りれせうとさうとさうとありさうと 秘 經廻りメク
監りありさうとさうとさうとさうとさうと

世よさうとさうと何事なり 父がさうとさうと
ひんかさはさうとさうとさうとさうと

秘 此乃ありさうと監なり
うらさうとさうと ありさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうとさうと

何人もいふにやういふ一書とあれどもいふに成せしとあるのみ
私に監するけいふやういふにやういふに成せしとあるのみ
物とやいふにやういふに成せしとあるのみ

中れりなるを後分かん
秘兄中れ中しそ中一書見となり
再かといれ中の兄といふ

あいつく
秘上流といふ
退き

わけあてしうり
秘上流といふ
を後分かんをいふとある

いふにやういふに成せしとあるのみ
夕鳥とあるに成せしとあるのみ
うりにいふとせめしとあるのみ
監するといふに成せしとあるのみ

乳母を監するといふに成せしとあるのみ
秘上流といふ
を後分かんをいふとある

何 吾嬬其説述 孝経序

何 吾嬬其説述
わがうりなるを後分かんをいふとあるのみ
わがうりなるを後分かんをいふとあるのみ
わがうりなるを後分かんをいふとあるのみ

秘孝経序 吾嬬其説述を以難之
を後分かんをいふとあるのみ
又或御説御に

とあるにやういふに成せしとあるのみ
を後分かんをいふとあるのみ
を後分かんをいふとあるのみ

とあるにやういふに成せしとあるのみ
を後分かんをいふとあるのみ
を後分かんをいふとあるのみ

秘大吏監り
假借人 貞親政要
行取御説をいふに成せしとあるのみ
又假借人 貞親政要
行取御説をいふに成せしとあるのみ

[illegible][illegible]

と下目つすきおしつりとも

^新 此の言は後奥よひ和弁といひ田舎人志願

けつ海つりやうらんあつたれ神を

いふるふくこととあるとて人々をこゝろあはれ神に
宿るうまうあはれいなりおる人々あはれ海に

その目つりやうらん

ふ月をえれその月をえ

ふ月をえれその月をえ

ふ月をえれその月をえ

ふ月をえれその月をえ

食塩

或古先物語云式家始祖宇合一男廣繼於西府謀及以大野

東人為官兵令攻彼木之時廣繼自以刀切頭其以昇空蹴殺

官軍成赤鏡之人悉死之肥前國松浦郡鏡明神是也

風土記云昔者氣長足姫尊在此山遙監国形而勅云天神地

祇為我助福使用御鏡安置此處其鏡即化為石見在山中因

名目鏡山

新子載とよ儀うれあめあめ男れをあめ肥

前國松浦郡鏡明神是也

肥前國松浦郡鏡明神是也

山と神切皇祖之神鏡化して石とあはれふと後ひとてこれ

とて鏡の神といふふじやうと初は松浦箱崎同社といふ

ふ月をえれその月をえ

ひ月をえれその月をえ

鏡の明神あまをえれその月をえ

奥よと神切皇祖之神鏡化して石とあはれふと後ひとてこれ

私と平ひとみとあめあめ男れをあめ肥

ひ月をえれその月をえ

ひ月をえれその月をえ

あまをえれその月をえ

あまをえれその月をえ

あまをえれその月をえ

あまをえれその月をえ

あまをえれその月をえ

ちかぢわゝ

子

いと仰ぐ新なる世ありては後の世と云ふも
年月をそへて久しき事と仰ふもいふも
いと仰ぐ新なる世ありては後の世と云ふも
年月をそへて久しき事と仰ふもいふも

哥回

何れも此の如く

歟と監るる然るる

五ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十

いそやしいま監りあんうううひれあともあてふうくあふあ
監りあともあてふうくあふあ
あふあともあてふうくあふあ
あふあともあてふうくあふあ

じとろへんてらぶきんと

およまん海へゆき

とうとういよいよいふあれとのうろこ板さりとて
 いふおふふふふふふふふふふふふふふふふ
 舟玉うろこことうろこことうろここ

此人志高く、まことにひつとく、ふりえあるに、其の志は、
ひつとく、まことにひつとく、まことにひつとく、まことにひつとく、

乙
知々知々
紙地云々

[illegible]

或佛説ひ奇き事これ心ひる位

あゝなりやんぬるをうとぞ

子月此中三句因念人海

盟のふと疾く之をそひて

子方

之

河親ハチウ万牙八

多色な兒才とよくな

あはれなるを

卷之五

わくろてりりて

振よせしきりあふ

あちのれきとてと夢海舟

死

卷之二

貴族のいふところ
婦人愛に由る

何きふはうむしなむのぢりふうまふ

和事めいろうなり

うねり

子もあつてはうにたふ

新
教
主
の
お
り
か
ら
き

却爲我之小過人而改之者

和まらうとあつては、
○の字を新ありと

叔子

[illegible]

ひそかに名をぬき海路より船中にて風流なる男とてうたひあはれ
舞玉うたひては男とてうたひあはれ

玉露花の影にうみくさくさるるを
新の末とて風波はゆき海
るるゆき海

まけしなまのめそあひさあし
てうとあてえそまあはうあて
監れつてくあてあて

うやふしうの
 せふは八丁とす
 うやふしうの
 うやふしうの

海城舟一舸と多く云ふにてもやう
舟四角苑云古我及漢語物云

波衣布衫 高尾舟一云 戦士可乗る恒舟也 ともやれ刀自他
浪女といふはえのせなりしともあはれ人ふなりとありあせ

大橋よりあともひともやれども人へさそふ
羽澤下

あやふさそうのありね
 此のうそはあやふさ
 此のうそはあやふさ

[illegible]

ういづて生死の成る所し毎時の心も身も
 名有り神申抄歌の心とこれあり梅子あり信院あり死あり云々
 孝子孝女天徳四年十一月十一日是日備前海中寺各木龍

李邦正紀云天德四年六月十一日是日脩前倭中興路未幾
驛至倭前便申乞賊二艘絕安未幾倭害索多捨舟脫遁疑入龜

此の如くは、
 ひたひたのなご、
 名妻ふゆ市とあり

いそぐれもなるかといふはあふし人
むとありに申しちり海賊れある一向れ事こそあらしてなま

[illegible][illegible]

并ありつれども 一勅告御恩とてあり
私ありつれども 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
私とてありつれども 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり

川ありつれども 又從者御恩とてあり

川ありつれども 又從者御恩とてあり

又從者御恩とてあり

私御玉作日託云云とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
川ありつれども 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
私とてありつれども 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり

川ありつれども 又從者御恩とてあり

又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり

伏見山崎西海南海二道舟船行之程自樞主泊至韓一日行
自韓泊至奥住泊一日行自奥住泊至大楠田一日行自大楠
田泊至河鹿一日行此皆行基菩薩計往取庭立一而公家唯
修造韓泊輪田長廢奥住泊以下畧之

又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり

又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり

又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり
又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり 又從者御恩とてあり

ふかきわくろりんとせて

おつれ御事と後とさへ

ありてあり

とらふれとありては

秘 心をこれありて時あること

さういふことあるなりてあると後うけをてあるひ

胡のたれせうといひてくんとてい

梁東卿并不得見 胡地妻兒虛弄指 白氏文集縛戒人

いそ後みりうとんとてはしと事とあひていふと痛あること

秘 心を後みれうと後文集縛戒人たれふうとねれり金龜とて

元漢攻胡之時漢人止胡國不得歸漢軍敗之故也後又元漢

攻胡之時止胡之人欲歸漢也此時并胡妻子而漢不入彼人

制圍之号歎國任人仍西國無使之名叶物語喻

私云文集縛戒人詞也 以上并

此云漢ヨリ胡必攻ラシニ漢軍破レテ多胡國ニ止リ据テ多年居キ

テ妻子ナトモ有リ其後又漢ヨリ胡ヲ攻ラシ時此者共漢方リタク思テ

胡國ニテ持テ妻子ヲ弃テ出タ漢ノ方ヘタク歎國ニ住シ先者トテ寄

セシタク結句團ツナトシタリを後み力筑紫ノ住シ先者トシモ難又都モ

改メナカラクシクをふしハ便モ有ニキリニ比シタリ

各部 思ふてまたあやれとやういふ人

を後みれ胡比乃せいといふとすき思ふなりとて

ありてうれとやういふこととてそのあつて

あつていふこと 然るるうとあれうと

そつていふこと ありてあつていふこと

あつていふこと 住つていふこと 教められ

ふれあつていふこと 住つていふこと 教められ

これいふこと 秘 ありていふこと

いうれいふこと 秘 ありていふこと

九条いふこと 秘 ありていふこと

あつていふこと 市女商人

秘 教められいふこと

秋もあつていふこと 三月よりあつていふこと

とていふこと ありていふこと

如勇敵龜之居陰
 似鳥雀之覆巢
 古頤文
 平於可動

庄
子
記
一
說
別
元
史

秘
古歌
（
親
子
別
動
も
も
其
義
よ
及
用
之
睢
鳩
在
河
例
よ
今

[illegible]

和以義而和之

人々
 いふ
 こと
 なる
 こと
 なる

ふさひきりあ
ききりあ

いふ作と何多れなけり
老後舟多くとみふ歌と

あふびもいもろ
豊後綱おふもいもろ

人
ち
り
れ

五
つ

うゑもの中にならう
わうと堅まゐるをなして

是後分て、これ等ふ、如て、も、攝、を、事、と、い、ふ、と、な、る、を、

なりぬきと申すにても新しきものなるを

何
管清
八幡也松浦文政多之說有之
風土記神功皇后御宇

延喜元年六月一日於親世音寺南大門御就宣祀

吾是八幡若宮一御子也大菩薩作之吾穗浪郡

大分宮移住後已有三意一者竈門之我伯母衛坐而年中節令府官以下因司離任年之間胎之車廐馬天遇遙拜下或方

著筌渡皮即前其恨有恐二者郡司百姓餐膳佻給越峻阻山

數日致煩民間若我若三者教生是海上之憂也德浪宮者

乙北教生地固也。避彼地歛穗任管。松原有其故。昔我國土。

鎮護始時戒定惠之爲被松原地取置也仍其名ヲ爲勝上寺也

舊時新宮可而新羅國旁又礎而書歆國降伏之由可立其

柱宮殿梁棟可用根又可安置藥師弥勒觀音木像奏閼土

家卑弃德浪古殿移坐落傍宮王畧紀文大氣為原雷轉朝臣

言上公家任官府肯少貳真我朝臣造立難富其官府談玄

詭宣之旨為沛取未闕如之外
賓通樓之境也宮殿殊

益恭廉者
延長元年遷御營侍離宮

花
簾
客者
筑
前
園
二
五

神切皇后鏡上
所給也

松浦宮の八幡同郷也 松浦夏在河若其義に不分明又記アリ

皮ふとふれし

肥前よりれり 臨時の立札とて同

社なれりや 八幡ありけり

貞観八年別當安宗之

時以運如法師始補五師 安和二年別當貞芳之時以師真

善法師始補大五師 村上御記云康保二年八月廿八日某

師寺三總五師木相卒泰陳外

八幡宮五師五人有斗丸 一勅五師ハ其法師ノ旨ハ五人斗

不隨八幡宮ノ不限諸寺五師ハ

あやれり

つらつとハ松老師中ニ

菩薩と云ふつらつと云ふ松老師ハ同寺ニ

松老師ハ親多ク松老師ハ親多ク松老師ハ親多ク

菩薩ありと云ふつらつと云ふ松老師ハ同寺ニ

涅槃ノ後一切光明功德山王松老師ハ同寺ニ

松老師ハ同寺ニ

松老師ハ同寺ニ

松老師ハ同寺ニ

松老師ハ同寺ニ

松老師ハ同寺ニ

松老師ハ同寺ニ

松老師ハ同寺ニ

松老師ハ同寺ニ

松老師ハ同寺ニ

松老師ハ同寺ニ

松老師ハ同寺ニ

松老師ハ同寺ニ

松老師ハ同寺ニ

松老師ハ同寺ニ

切よと云ふにいとせめても
わらうさわりくも
これといひてくれといひ

今にわたりてしるするに
 けりしとていふに
 けりしとていふに
 けりしとていふに

私初は是のうゝをとおひをり是

七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

并一勅軟腰と云氣の依りては、
これより人々

何事よりいふにあらん

乞ひ事ふ比ぬ

うゝあふあふ

雲の沸やうもれくさうらひあるふもたれ
 玉ふりやうもれくさうらひあるふもたれ
 雲の沸やうもれくさうらひあるふもたれ

道に集るゝなり

うらうらあゝ

大軍征滿

まろゝの

二

三ノノ

つるく

お
右をへい
こ
ひ右をつまみ
かたしよあはれ

地元の海沿いのそばに

このゆゑに

李之

燈をきり
 川邊に
 見えて
 ありと
 あふは
 海に
 あり

と柔くになつて

二
人
なり

所御之志も余れ

柔くうねる如く
やとまてはそふりし女

かきまのひ御

私よりし御返とて次中將よりおびとみえ

うりにおる事とてあはれをたてしめ給ふ時
申すも人知れぬ事なりとてあはれをたてしめ
あはれなりとてあはれをたてしめ
あはれなりとてあはれをたてしめ
あはれなりとてあはれをたてしめ

これなり

とある

あはれなり

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あはれなりとてあはれをたてしめ

あつと月にかざれわささなり

* おうれ光のと

うらやま

おうら

あてさう

おうら

おれ御とれ

おれ御とれ

おれ御とれ

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

おれおらうら

うづもれ

2

枕草子

10

2

五

松

子

は

しん

三

と六曲盡よりてまゐりて

れふあふ

49

張氏

[illegible]

海老川のり川と名を

死と海をわたりて

子と爲ふをいふと廣くは

唐より唐より新唐を以て

人々を連るる

又原の如く大男大女

2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526

卷之五

卷之四

おひらきとあて

あつたてとあて

いひしき神といふなり

おひらきとあて

あつたてとあて

おひらきとあて

あつたてとあて

おひらきとあて

あつたてとあて

中將あつたて

あつたてとあて

中將あつたて

おひらきとあて

おひらきとあて

白氏文集 百鍊鏡

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おひらきとあて

おそめくさ事おれおひそり
けうく人おと日おひそり

これつるおれおふ
ちとるるるるるるるるるる

けうく人おと日おひそり
おれおひそり

い 李邕王託云 延長八年八月作乾文遙祈長谷寺觀音願神病
平愈將造白檀觀音像及奉鏡一面灯明十万灯 今案文御
門延喜帝之御臨之時來在院神願文也

えくれんくくくく
例文なれんくくくく

あらうれありん
あうれありん

それんおひおんくくく
これんおひおんくくく

えくもあうくく
これんおひおんくく

わくしんくく
えくもあうくく

えくもあうくく
えくもあうくく

えくもあうくく
えくもあうくく

えくもあうくく
えくもあうくく

えくもあうくく
えくもあうくく

えとそまうりあゝつに ちと悪んなりあゝゆに
彼らに乃まとい れあつれ中まといたよりあゝあ事

なれし知りあゝしゆらり
昭君をきういふうゆいゆいふいなりい

い 明る昭君ハハ
昭君をきういふうゆいゆいふいなりい
人乃御うらり はとこの事

た タクハハの事 たれ
あゝとれありいふうゆいゆいふいなりい

源のふあはとれうらりとあせしはあゝとくろ
事あれいひうらあゝとれうらりとあせしはあゝとくろ

い 双しはと乃事とれいふ い 源氏あゝとれあゝとれあゝ
いれいゆらりゆらん い まういふうらゆらん

ちとあゝはとととあゝいなりい い 今あゝとれあゝ
いれいゆらりゆらん い まういふうらゆらん

いれいゆらりゆらん い まういふうらゆらん
いれいゆらりゆらん い まういふうらゆらん

い 楊梅経え世の頂放百宝を畏光明 い 今業松の光明の眉を
うらとふは乃下よりあゝとれいふ い 今業松の光明の眉を

えとれいゆらりゆらん い まういふうらゆらん
えとれいゆらりゆらん い まういふうらゆらん

えとれいゆらりゆらん い まういふうらゆらん
えとれいゆらりゆらん い まういふうらゆらん

い 人乃御うらり い まういふうらゆらん
いれいゆらりゆらん い まういふうらゆらん

い 昭君をきういふうゆいゆいふいなりい
昭君をきういふうゆいゆいふいなりい

い 昭君をきういふうゆいゆいふいなりい
昭君をきういふうゆいゆいふいなりい

い 昭君をきういふうゆいゆいふいなりい
昭君をきういふうゆいゆいふいなりい

たりて知れぬをくらひあはれはなほあり

知らぬなりけり 親をあらはれぬくくあらはれぬくもあて

わらわの世にあらはれぬく ちとていへり親

おのつゝあはれなりけり ちとていへり親

父のつゝあはれなりけり ちとていへり親

母のつゝあはれなりけり ちとていへり親

兄弟のつゝあはれなりけり ちとていへり親

いとわが身をば ちとていへり親

いとわが身をば ちとていへり親

いとわが身をば ちとていへり親

いとわが身をば ちとていへり親

いとわが身をば ちとていへり親

いとわが身をば ちとていへり親

いとわが身をば ちとていへり親

いとわが身をば ちとていへり親

いとわが身をば ちとていへり親

いとわが身をば ちとていへり親

おねとんをそれなり

お月様いそがしき人なうそで いそがしき

秘 それいそがしき人なうそで

おねとんをそれなり

お氣をなうそで 御名をそれなり

おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

秘 おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

を

おねとんをそれなり

秘 おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

秘

おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

秘 おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

おねとんをそれなり

下 秘

之

い

并

秘

女

秘



秘

7

も

1

二一
り
せ
う
や
あ
へ
ん

秘
ひねる乃母とあはれ

[illegible]

秘
子
來
と
女
と
子
と

するくしき連なりつゝふいふやうな下つゝ極のふかき
 もじの程をうかしのまゝくしくぬりこむ好まうなり
 あらにすゝみいふ好なり

像上之唐如少如也

いぢりなれぬ

比
比下女之志
或市女商人也

いふ女商人と云ふ詞もよくあり

うはもあつ日あの日より地と市に安れこの日なり
 今案をせしむる人なると地意商人か何れいふ事
 りうふたのつてはさて申しらばさういひやうゆめ
 将^{サウ}とあるを^{キタ}出するしてなる

將^{サウ}之^{キタ}馬^{キタ}を^{キタ}出^{キタ}来^{キタ}り^{キタ}て^{キタ}な^{キタ}り

その人志なり

玉ふれ族姓とありてふ所

十月二十三日

秘
一
十
月
と
な
り
て
な
る

十月イホ可開

ふと、
うん、
あ、
うん、

死を望むるは此世の對境なり

花菱里に
ふくみ玉
うねるを
むらり
（歌）

あまのりり

秘
源の類

あはれ

物然之為所折也

えきでん

女
う
な
ま
も
て

秘年ゆづるに今ゆづる女二葉れ

曰
礼記內則云女子十年不出
十有五年而笄

時
礼記
いふや人
は嫁
めと嫁
と云

何
おふふふと
姫と云老姫と云
九年老あり

玉
あうあうさうに
姫黒れゆとあく
あくとあふあは
あらいに

并
あ
か
り
な
る
ま
で
艦

秘如ひれあふ乃義互秘の女とる人あのみと角

おかしなところではあるが、
時よりあふとてゝあつて
あつて

ねりぬきよりあはれとて初めはけふの時までに

とてふは、
とてふは、

中ねとまのつげめんに

夕霧中將様をいふあり

い夕霧と花の里にうしろをみればひさしなわ

夕霧まうと花の中將様をいふ夕霧と花の里にうしろ

川ひみふとつり

おれしとつり

お霧と夕霧れと花の里に

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

夕霧にうしろ

おとこつとありき人のめくらめくらしていつとある

^秘にりてつとなれたなり

これにれき人よれあつていふなり

^秘夕とよ能似るものとせよ

なるれ似るなりそれとせよ又あよたそくつとあり

ゆふよきぬよひいふなりあふ合とらふればとせ

いふとそとせよめれ

いふと人々をそとせよ

ゆふにきひなりとせ

^秘海のしとせ

さうとせ

ゆふとせ

ゆふとせ

ゆふとせ

あつとせ

^秘ゆふとせ

ゆふとせ

^秘ゆふとせ

ゆふとせ

ゆふとせ

ゆふとせ

ゆふとせ

^秘ゆふとせ

ゆふとせ

ゆふとせ

ゆふとせ

ゆふとせ

ゆふとせ

ちとよあて

なれぬひもあてちとよあて

うづりぬいぬ

海の家へうづりぬいぬ

うめもこり

はとよあてこりぬいぬ

さかひのり中に

そよりあてぬいぬと海の家より

こりぬいぬ

海の家へもあてぬいぬ

これよりぬいぬ

海の家へもあてぬいぬ

とれぬのちもれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

あてぬいぬ

海の家へもあてぬいぬ

ぬいぬのちもれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

れいこりぬいぬとれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

とれいこりぬいぬとれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

とれいこりぬいぬ

海の家へもあてぬいぬ

とれいこりぬいぬ

海の家へもあてぬいぬ

とれいこりぬいぬとれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

とれいこりぬいぬとれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

あてぬいぬ

海の家へもあてぬいぬ

とれいこりぬいぬとれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

とれいこりぬいぬとれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

とれいこりぬいぬとれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

とれいこりぬいぬとれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

とれいこりぬいぬとれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

とれいこりぬいぬとれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

とれいこりぬいぬとれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

とれいこりぬいぬ

海の家へもあてぬいぬ

とれいこりぬいぬ

海の家へもあてぬいぬ

とれいこりぬいぬとれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

とれいこりぬいぬとれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

とれいこりぬいぬとれいこりぬいぬとれいこりぬいぬ

とれいこりぬいぬ

月と海は身と夕魚ととて是に無とる所の同なり
 いふのさうといふのさういふのさういふのさう
 玉の露とさうとさういふのさういふのさう
 後撰に玉の露とさういふのさういふのさう

後撰

停路

あふれとてむらり
新
夕魚乃事とのゆりし 亥日

は
ふれろや片墨のいひよ
うそをを極人あやとあや
ふるうにやもろ人
保の阿さういあやあしはあやとあや

中將忠孝
 人々々々
 夕暮れ
 源の

夕霧中ねる城よ歌うかゝるいそひあそそ
 まゆめよりほろり
 いそひあそそ

めあひあひり ねとんまふあふりしとあふり
 うりねまふあふりしとあふり

心乃此よりあつていふ御ときありしなり
い 誠意をこれなり

秘
 卷後分ふうてふんりつうておつとあるなあり
 事とあるは御後者と云ふ浪をうわの中ひうきうてある

秘
 源久留
 秘
 前々和守此方小なり
 秘
 此方小なり

松
 大吏監り申す

[illegible]

ゆ
きんういさぬさういふ海くはうふ海くいさふさふれ
或ひいさふさういさふ海くはうふ海くいさふさふれ

其後みりんくんとまうまうに物うり
 君もみりんくんとまうまうに物うり

不^そなるハ事^{こと}とあり
 源^{げん}のさあなり
 乙^{おつ}は方^{はう}別^{べつ}てある

孝後介となりぬ

いそ後介とあ封れ帳主乃御目ふあて
わ中ひふ川こりーんち

そ後介うん

いそつかりふとまふうん

ひ介あうりやあふ

いあ中へる難出入と今御目あてふあ出入と帳主人と
人といふこととあてふことなる

あてふこととあてふこととあてふこととあてふことと
あてふこととあてふこととあてふこととあてふことと

おとれ君乃にふあてれうあてふこととあてふことと

そ後介とあてふこととあてふこととあてふことと
あてふこととあてふこととあてふこととあてふことと

年れそに御目あてれ事 であつてれあてふことと

いそあてふこととあてふこととあてふことと

いそあてふこととあてふこととあてふことと

あてふこととあてふこととあてふこととあてふことと

いそあてふこととあてふこととあてふことと

いそあてふこととあてふこととあてふことと

あてふこととあてふこととあてふこととあてふことと

あてふこととあてふこととあてふこととあてふことと

あてふこととあてふこととあてふこととあてふことと

あてふこととあてふこととあてふこととあてふことと

いそあてふこととあてふこととあてふことと

あてふこととあてふこととあてふこととあてふことと

あてふこととあてふこととあてふこととあてふことと

あてふこととあてふこととあてふこととあてふことと

あてふこととあてふこととあてふこととあてふことと

あてふこととあてふこととあてふこととあてふことと

あてふこととあてふこととあてふこととあてふことと

あてふこととあてふこととあてふこととあてふことと

井 かねたうき女れうなねし 一物おうれよ上病れし
ふさう物し下にうさひれうあさうあし

あさう物れふふあり物ありう海なまよりれれふ
りひやううあさういしとれふ物りうてなれれうふ
何 うつ海浦又大海のこととあさう

秘 大海よりう目しとあさういしむらう里し
元 海賊の大海よりうや目やなりありう文なり 海儒か

もさあひ物あさうとれふ物りいふらありし
くりあがれふやまふとれふあさうあれあい
秘 くりあがれふとれふあさういしとれふあさういし
井 くりあがれふとれふあさういしとれふあさういし

も 山吹いふとれふいしとれふあさういしとれふあさういし
くりあがれふとれふあさういしとれふあさういし
りあがれふとれふあさういしとれふあさういし
内りあがれふとれふあさういしとれふあさういし
りあがれふとれふあさういしとれふあさういし

あさういしとれふあさういしとれふあさういしとれふあさういし

あさういしとれふあさういしとれふあさういしとれふあさういし

あさういしとれふあさういしとれふあさういしとれふあさういし

あさういしとれふあさういしとれふあさういしとれふあさういし

あさういしとれふあさういしとれふあさういしとれふあさういし

心無難危し

私人のこころにあらざるは

うめくればとて出まじ限りありて事なり
うめりれどもことごとく死をうけざるは
海況いづれもさるる事なり

そらひまろ物として彼末摘花乃御もさうふ

ひまろつり新物なりさうさうなり

柳乃あり物なりさうさうなり

花柳いふて白く

さうさうなり

花さうさうなり

人々種なり

花さうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

人々種なり

花さうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

花乃ありさうさうなり

英衣無親主源主 後源氏及良家子孫弱冠志志之
る子孫唯爾上云臨時用英衣
別限古傳 びらてまひ

私花乃義と用ゆ

あけ 目えぬつこ

もにふげついぬらん乃御ん

秘 似氣付

秘 志と乃似とそんふ角とあしつりあり

も 志と乃似とそんふ角とあしつりあり

うーるれえんがうと

秘 志の源あなをたれ

うーるれえんがうと

秘 志の源あなをたれ

山吹花うらされ神といふ

秘 伎の源

うーるれえんがうと

いーるれえんがうと

秘 みの源

い柳のさあれえんがうと

未摘

私花乃義と用ゆ

きーるれえんがうと

いーるれえんがうと

私花乃義と用ゆ

いーるれえんがうと

私花乃義と用ゆ

私花乃義と用ゆ

私花乃義と用ゆ

私花乃義と用ゆ

秘 奥ノ字と上云とありにあらう

いーるれえんがうと

いーるれえんがうと

いーるれえんがうと

秘 緑あまりに比良あはし源の源

秘 ちれ事いふあひ供あふなり
めなれれ 井 ちめれるいふ
あひいふあふいふ 井 ちめれるいふ
あひいふあふいふ

いふあふいふ 秘 ちめれるいふ
いふあふいふ 秘 ちめれるいふ

常陸あふいふ 秘 ちめれるいふ
し 秘 ちめれるいふ

秘 奇の髓あふいふ 秘 ちめれるいふ
秘 ちめれるいふ

秘 ちめれるいふ 秘 ちめれるいふ
秘 ちめれるいふ

秘 ちめれるいふ 秘 ちめれるいふ
秘 ちめれるいふ

あふいふいふいふ

秘 ちめれるいふ 秘 ちめれるいふ
秘 ちめれるいふ 秘 ちめれるいふ
秘 ちめれるいふ 秘 ちめれるいふ

秘 ちめれるいふ 秘 ちめれるいふ
秘 ちめれるいふ 秘 ちめれるいふ
秘 ちめれるいふ 秘 ちめれるいふ

秘 ちめれるいふ 秘 ちめれるいふ
秘 ちめれるいふ 秘 ちめれるいふ
秘 ちめれるいふ 秘 ちめれるいふ

也源

[illegible]

何
右歌の詞は丁
幼



